

あいである REPORT

レポート NO.3

児童養護施設退所後の見守り支援、アフターケアサポートとして、実家便®支援の活用を提案しています。

また、子どもの自立に向けた準備のためのお金の管理に関するレクチャー「マネークリップ」についてもご紹介しています。



『実家便』活用の「声」をご紹介します!



～「子持山学園」長島先生より～



「防災グッズとかレトルト食品とか助かるよ!」
「結構いろんなものが入って、あれ、いいよね!」
実家便が届くと卒園生から喜びに満ちた声が聞こえます。上から目線の物言いには、「おまえ... (汗)」と突っ込みを入れたいくなりますが...
「支援」=「与える側・与えられる側」の構図がよぎり、感謝しなさい!と言いたくなります。

ところが、あいであるさんの実家便は、フラットで親子関係にも似た温かい関係であり、親が離れて暮らす子を思って送り届ける小包みそのものなのです。

親への感謝の気持ちってなかなか言葉にできない、そんなものですよ。今はただ、小包みを受け取って心がほっこりしてくれたらそれでいい、いつかゆとりができれば、自分がしてもらったように恩返しや貢献の気持ちの一つでも実行に移せる大人になってほしいと願っています。

先日、付き合っている彼を連れて学園に遊びに来たSさんから、「来月、入籍することになったの!」と嬉しい報告がありました。彼の横でとっても穏やかで幸せそうなSさん。今まで前向きで居続けられたのは、彼女自身の努力といろんな人の支えがあったから。その一つ、実家便も心の支えだったんじゃないかと思います。



今年度は、在園中の子どもたち向けに、社会の金銭感覚を身に付けるために考案された「マネークリップ」のレクチャーもお世話になりました。ゲーム感覚でリアルな日常の収支を仮想体験できるものです。

金銭計画の大切さを言葉で教えてもイメージが追いつかず、卒園後に大変な思いをする子どもも少なくありません。「受け身」ではなく、「参加型」で金銭感覚を体得していけるもので、この夏、子どもたちは楽しみながらレクチャーを受けていました。

インタビュー 『実家便』に、どのようなご感想・ご意見を持たれているのでしょうか?



双葉園 高木 千乃 先生

実家便が届くと、しばらく連絡を取っていなかった卒園生からも「届いたよ!」防災グッズとか自分で買ったことがないけどいろいろあるんだね...「食品が多くて助かるよ!」ありがとう」など電話やメールが来ます。実家便についてのやり取りから、今やっていること、仕事や生活、友人・恋人や家族など人との関わりについての話に発展し、様子を知ることができ退所後の生活も共有できる大切な機会となっています。

日常生活の流れのなかで、届いた贈り物に、ふと...過去を思い出したり、今もつながりがあること、また、世の中に思いを寄せてくださっている人がいることを感じてくれたらと思っています。

公益財団法人あいであるさんとの結びつきから、実家便を通して、卒園生とのつながりにひとつの線(きっかけ)が増えました。そのひとつの線には、ボランティアさんも含めてたくさんの方がつながっています。目の前にはない見えないつながりに、支えてもらい力をもっていることを卒園生や今いる子ども達と一緒に私たち職員も大切にしていきたいと思っています。

社会の厳しさのなかでも、孤独感ではなくつながりによる温かさを少しでも多く持ち、生き抜く力がよりたくましく育まれるように願っています。



女子グループ卒園生担当職員
太楽 豊 先生

退所後不安が多くある中、実家便がある事で少なくとも5年間はいいであるさんや双葉園とつながっているという安心感が生まれてくると思います。

職員も卒園してからの生活を知る機会となり、安心材料になっています。



女子グループ卒園生担当職員
細谷 千明 先生

実家便と一緒に職員からの手紙も届けて頂いていますが、電話や会って話すだけでなく、手紙で思いを伝えるつながりも大切だと感じています。一つひとつの思いが卒園生や職員の励みになっていると思います。

